

永田台小学校

問い合わせ先: 問い合わせ先: 045-714-4277

I 学校の概要

1 児童生徒数, 学級数, 教職員数

(平成30年3月現在)

児童数 478名

学級数 16学級

教職員数 39名

2 地域の概況

学校はマンションや団地に囲まれているが、地域の方々は、花や木を植え整備し、緑で住みやすい町づくりをしている。しかし、団地も年数を経て、横浜市内でも最も高齢化が進んでいる地域となっている。また、地域を活性化するために2か月に1度つながり祭という町おこしを行っている。商店街の空きスペースで地域の人や子どもが出し物を行い、地域を活性化させようとする取り組みである。

3 環境教育の全体計画等

自分たちの身近な環境を見つめることを通して、よりよい環境を作っていこうとする児童を育てることを目指す。

・環境に対する豊かな感受性の育成

自分自身を取り巻くすべての環境に関する事物・現象に対して、興味・関心を持ち、意欲的にかかわり環境に対する豊かな感受性をもつことができるようにする。

・環境に働きかける実践力の育成

環境保全のため、どのような生活様式や実践的行動をとるべきかなどを考えて行動することや、自ら責任ある行動をとり、協力して問題を解決できるようにする。

・環境に対する見方や考え方の育成

身近な環境や様々な自然の事物・現象の中から自ら問題を見つけて解決する力とその過程で獲得する知識と技能を身に付けることで、持続可能な社会の構築につながる見方や考え方を育む。

II 研究主題

「サステイナブルスクールを志向する環境デザインについての研究」

III 研究の概要

1 研究のねらい

「作る、できる、発表する」ことだけに満足することなく、「影響、変容、変革」を求める子どもの姿を目指している。観測を通して、多くの気づきを高め、課題意識をもち、身近な実践を行っていくことができるようにする。

2 校内の研究推進体制

(1) 研究推進体制

① 校内体制

校長、副校長、教務主任、環境部を中心に計画・研究・情報発信を行う。

② 関係諸機関との連携

・エコプロ2017に参加…

3～6年生、個別支援級が参加し、2日間にわたって自分たちが調べていることや、学んでいることを伝えた。また、各企業のブースを周り、企業のエコや環境の取組を知った。また、今年度は、休日は職員が永田台小ブースに立ち、学校の取り組みを紹介した。

・タラ号乗組員とアーティストの出前授業

昨年度3月に見学した、海上調査船タラ号の乗組員のシルバン先生に今のサンゴの現状を聞き、サンゴの白化現象と地球温暖との関わりについて学んだ。また、アーティストである大小島先生と絵を通して海的神秘さについて学習した。その中でも、大小島先生に海には様々な生物の死骸やそれを食べる生物の関係性によって成り立っている「海は生命のスープ」と教えていただいたことに子ども達は感銘を受けていた。

・森林インストラクターによる出前授業

森林インストラクターの方を招き、身近な環境について学び、自然の中で遊ぶ楽しさを知る。

・環境絵日記…

横浜市資源リサイクル事業協同組合主催の取り組みで、夏休みの宿題として応募している。

・エコライフチェックシート…

(別紙様式2) 環境のための地球規模の学習及び観測プログラム(グローブ) 推進事業中間報告書

横浜市環境創造局主催の取り組みで、夏休みの宿題として取り組んでいる。

ているご家庭も多くなってきている。

(2) 観測体制

主に環境委員会(5・6年生)が取り組んでおり、毎日昼休み(13時過ぎ)に、雲量・雲形の観測、ビオトープの水温・地温・PH値測定(PH試験紙使用)、最高気温・最低気温・現在気温の測定を行った。日替わり当番制で活動した。

(3) 観測機器などの設置状況

① 百葉箱

校舎裏に設置している。

② 温湿度計

各教室に配置しており、過ごしやすい温度湿度がわかるようになっている。

③ 地温計、水温計

ビオトープに設置している。

④ PH試験紙

ビオトープの水質検査に用いている。試験紙の色を見ることで、酸塩基濃度がわかるようになっている。

③ デジタルカメラ

雲の観察に使用。毎日の雲の様子を定点か撮影している。

④ 記録ファイル

雲・ビオトープ・気温の3冊を用意し、わかりやすく記入できるよう作成した表を使用した。



・エコライフチェックシート

3年生以上が夏休みに取り組んだ。自分の生活がエコにどれだけ貢献しているか、チェックをすることで確認している。

・エコプロ2017出展(3~6年生)

自分たちの身の回りの環境の調査や観察等で気付いたことをもとに、ブースを出展し、見学していただいた方に、子ども達一人ひとりが、どんなことを調べ、どう感じたかなどを聞いてもらう場としている。また、企業ブースを見学する中で自分達の活動と関連付けて企業見学することで、自分達の取り組みが社会とも関係していることを実感する場となった。

②各学年の取り組み

・1年生「キラキラ笑顔 みんななかよし1年生」

1年生は、自分のことは自分でできる子というテーマを基に、①自分の思ったことや感じたことを言葉にする②植物や動物と継続的にかかわり続ける③分からないことは、進んで友達や人に聞く、尋ねる、追及する④ペアやグループで相談したり、確認したりしながら学び合うという4つのテーマで取り組んだ。特に、②については、地域の人を招き、植物の育て方を聞き実際に植物を育てた。その中で、身近な植物の命のつながりを感じたり、季節感を感じたりした。

3 研究内容

(1) グローブの教育課程への位置付け

①身近な環境、自然事象に目を向け、「影響変容・変革」を求める子どもの育成を図る。

②日々の観測を続けることで、世界の環境に目を向けることのできる子どもの育成を図る。

(2) グローブを活用した教育実践

①全校の取組

・環境絵日記

全校で夏休みに取り組んだ。身近なことや、自分の生活を振り返り、見直して、環境の事を考え、環境に良いことに取り組んだりしたことを絵日記にした。今年で5年目に入り、子ども達自身もどのようなことをしようか、考え、活動に取り組む姿勢が見られる。保護者の方にも理解があり、子どもと協力、実践して下さっ



・2年生「たいよう」

2年生は、温かさや優しさをテーマとし、①友達を大切に②あいさつ③笑顔④元気をテーマとしてつながりを大切にしたりした取り組みを行った。

実際に野菜を育てることで、野菜が育つ環境について考え、育てた野菜を食べることで自分達の成長に関わっていることを学んだ。



(別紙様式2) 環境のための地球規模の学習及び観測プログラム (グローブ) 推進事業中間報告書

・3年生「つづけられる いいこと」

3年生は自分達で続けていけることについて考えた。その中で永田台のまちのつながりに気付き、永田台の一人ひとりが輝けるように考え、行動できるような取り組みを行った。また、身近な環境について考えた。蝶の羽化を観察することで命のすばらしさを知った。

そして、生物が住む環境についても考え、ごみの分別や水資源の使い方、電気の使い方について考えていった。また、太陽光利用を考え、日光だけでお米を炊く体験を行った。



・4年生「身近なことからヒト・モノ・コトのつながりを考える」

自分達の生活を支えてくれている人について学び、その人たちの思いを知ることで自分達ができる活動を考える取り組みを行った。



見守り隊の人たちが登下校の安全を守ってくれていることや消防署が24時間体制で町の安全を守っていることを知った。また、地球環境を考え、ごみの削減に取り組んでいることや安

全な水はどのように作られているかを知った。また、世界には安全な水が飲める地域が限られていることも学習した。これらの学習から、自分達と生活とのつながりを考え、地球環境について知るきっかけとなった。



・5年生「稲 いいね」

日本の伝統的な米作りから日本の文化について考えたり水田の役割について考えたりしました。水田の役割について考える中で、生き物が住みやすい環境について調べたり、土の中にある微生物の役割について考

えたりするようになった。また、実際に田植えから収穫まで手作業で行うことによって昔の人の苦勞を知ることができた。地域の人に一から教えていただいたことによって感謝の気持ちをもつことができた。



そして、日本の伝統的な稲作を学習することによって、日本文化に興味をもち、外国の学校と交流する子ども達も出てきた。その子どもたちは、日本の文化を紹介したいという思いをもち、手紙の交換を行ったり外国語活動で習った英語を使って自己紹介を行ったりした。そして、日本と世界のつながりについても考えることができた。



・6年生「つながろう永田台わたしたちにできること」

6年生は昨年度からの取り組んでいる、SDGsについて引き続き学習している。

昨年度の取り組みとしては、SDGsカードゲームを通して「SDGs (持続可能な開発目標)」を知った。気候変動によって様々な地域で生活に変化が起きていること、世界は今、どんな状況にあるのかななどを調べた。またJICAでの「もしも世界が100人の村だったら」の体験から、日本と世界の違いや貧困、まだまだ残る差別に気付いた。SDGsの取組については、17の目標から自分の考えたいもの、調べたいものを選び、自分が考えたこと、学んだことをエコプロで伝えた。また、「あなたは、どの目標が大切だと思いますか?」と聞くことで、一人ひとりにSDGsへ関心をもってもらおうと努めた。

そして、今年度は、昨年度の取り組みを踏まえて自分達にできることは何か、考えることを中心に活動を行った。その中で、地域を活性化させるために、つながり祭に参加したり、自治会長さんから永田台の現状を聞いたりして自分達の町のことについて考えていった。その際に、「まちづくり運営委員会」に参加し、自分達の町をどのようにしていきたいか

(別紙様式2) 環境のための地球規模の学習及び観測プログラム(グローブ) 推進事業中間報告書

考えた。



・環境委員会の取り組み

グローブ活動の主な調査は、環境委員会が担っている。グローブ活動を始めた5年前より、雲量や雲形の観測や気温の観測を続けて行っている。また、雲の写真を毎回とることによって、天気の変化と雲量について考えることができた。観測結果を記録するには、それぞれのファイルを用意し、子ども達だけで記入できるようにしている。



そして、蛍の住める環境をビオトープに作るという目標のもと蛍の飼育とビオトープの整備も行うようになった。よって、蛍が住みやすい環境がどのような環境なのかを考え、ビオトープの水質や地温の計測を行うようになった。そして、ビオトープの整備は、外来種の雑草を除去することや蛍の餌となるカワニナを放流した。そして、蛍を地域の「ホタルの会」の方に幼虫を分けてもらい、飼育の仕方について教わった。

しかし、ビオトープの整備が終わっていないため、蛍は幼虫を水槽で飼育し、土に上陸させるのは、専用の上陸場を作って飼育した。



IV 研究の成果と第2年次に向けての課題

(1) 研究の成果

グローブ活動を続けてきたことによって、データの蓄積ができた。よって、グローブ活動を行った5年間の記録は、今後研究していく上で重要となる。また、環境委員会の活動として、グローブ調査が定着してきた。そして、様々な雲形や種類を知る中で、雲形や雲量と気温の特徴について考えるようになった。また、1年間の研究を見直した時に、季節と気温の関係や雲量と季節の関係にも注目する

子どもも出てきた。そして、季節によって気温差があるが、地温の変化が少ないことに気が付いた。また、雲量から、今年度の天気の特徴についても考えるきっかけとなった。

記録ファイルをグローブのHPと同じ形にしたことで、入力がスムーズに行える。

気候変動やSDGsとグローブ活動を関連づけられるのではないかと考えられるようになった。

(2) 課題

ビオトープの整備が、予算等の関係でなかなか思うように進まない。蛍が住めるビオトープを目指しているが、盛り土や水の状態を整備しないと、蛍をビオトープに住まわす環境とならない。また、現状は、水槽と専用の上陸場を作って蛍を飼育しているが、3年前に1度成虫まで成長したが、最近は、成虫まで蛍が成長せず、上陸(蛹)までで飼育がうまくいかない。「ホタルの会」の方と相談しながら土の状態や水分具合を話し合っているが決定的な原因が見つからない状態である。

現在、発信の場が少ない。よって、観測したものを全校へ発信する場を設けないと、グローブ活動の広がり限界を感じる。

V 研究第2年次の活動計画

SDGsとグローブ活動を関連付けて行う。特に13の「気候変動」と関連付けて考えることによってより、自分達の活動に対する気付きを増やしていく。

また、今までの蓄積してきた記録を基に、子ども達が今後の天気を予想し、発信していく場をつくる。

それに加え、本校はエネルギー校としての活動も行っているため、太陽光と気温の関係や地温が一定であることについて考えるきっかけとしていきたい。

